

ZOCALO

2005 8・9

ZOCALO＝ソカロは
メキシコの都市の広
場を意味するスペイ
ン語。埼玉県立近代
美術館はアートを通
じて交流する市民の
広場をめざしています。

常設展

「キュレーターの視点－〈点〉と〈網〉」

7/27(水)～10/30(日)

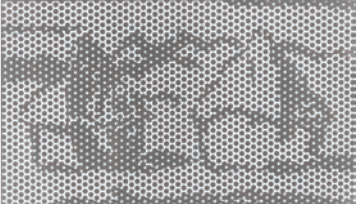
◆「点＋網」×「網点」＝？

常設展の特別プログラム「キュレーターの視点」は、自由なテーマの設定、斬新な作品の組合せ、実験的な展示方法などに挑戦することで、美術館のコレクションにユニークな視点から光をあてる実験的な試みです。第二弾となる今回のテーマは「点と網」。以前から取り組んでみたいテーマでしたが、常設展リニューアル後の作家特集として**瑛九**と**草間彌生**の展示を担当したこともあり、瑛九の点描がもたらす浮遊感のある空間表現の魅力や、草間の網目モチーフがもたらす幻惑的な表現の魅力を、作家という枠組みとは別な視点から探ってみたいと感じていました。

さらに、今回のテーマを深める上で大きな刺激を与えてくれたのは、去年見た**リキテンスタイン**の大規模な回顧展でした。印刷における「網点」をヒントに、視覚の間接性や視線の半透過性という別な側面からのアプローチを促してくれたのです。（網点をご存じない方は、印刷物をルーペなどで拡大して見てください。細かな点が見えたら、それが網点です。）リキテンスタインの作品は、多種多様な印刷物が流通する「網点の溢れる世界」に対するアイ

ロニカルな態度表明となっています。一方、瑛九や草間の作品はそのような態度表明を意図していませんが、急激な視覚文化の変革や人間の感覚の変容に対して、無意識的・本能的に何らかの反応を示していたのではないか、そんな風にも感じます。

こうして、当館収蔵のこの3作家の作品を思い浮かべているうちに、「点＋網」×「網点」という妙な図式が成立し、ある仮説が生まれました。すなわち、点と網は区別することができず、点が網を呼び寄せ＝点が密になると背景が網として浮上する、網が点を呼び寄せる＝網が密になると網目が点として浮上する、そんな表裏一体の関係が人の視覚と身体に深く根ざしているからこそ、「点」や「網」をモチーフとした優れた作品は、様式的なレベルにとどまらず、現実の世界を見る経験とのスリリングな緊張関係を発生させるのではないか、という仮説です。



○ロイ・リキテンスタイン《積みわら7》1969年

○は当館収蔵作品、●は特別出品



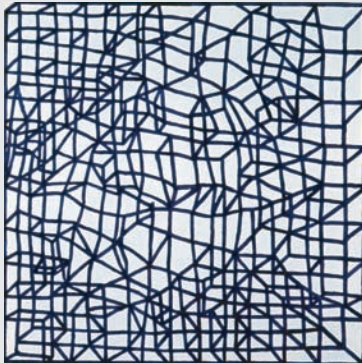
●廣瀬智央《ビーンズ・コスモス01》2002年 作家蔵



○瑛九《青の中の黄色い丸》1957-58年



●小河朋司《2004.O-L water drop & cloud-pink》2004年 作家蔵（参考図版）



●額田宣彦《jungle-gym(02-1)》2002年 作家蔵



○草間彌生《スーツケース》1966年



●澁見一秀《TEXT No.82》2004年 作家蔵

常設展 ミューズ・フォーラム II

ARDAの宝島探偵団

Hunting Museum! サイを追跡せよ

ミューズ・フォーラムは美術館の楽しみ方を皆さんとともに再発見するひろばです。美術館がテーマを決め作品を選んで展示するのではなく、外部の方々に新しい楽しみ方を提案してもらい共同で実現するものです。第2回の今回はARDA（NPO芸術資源開発機構）の皆さんの提案企画「**Hunting Museum! サイを追跡せよ**」です。

美術館のあちこちに、三つ葉のクローバーのような足跡が発見されました。動物園ならともかく、ここは美術館。何か動物が迷いこんだのでしょうか。この謎の動物は、どうやら「お宝さがし」をしているらしい。。。

そんな情報を元に、アート発掘スペシャリスト集団ARDAに調査の依頼が寄せられました。館内をくまなくリサーチした彼らは確信しました。美術館の中にサイがいる！

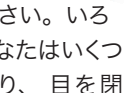
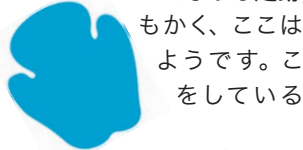
サイ。動物のサイ。カバではありません。このサイは絶滅危惧種だそうです。早く捕獲して、保護しなければ、、、

そう考えたARDA調査隊は、館内に残されたサイの跡「お宝ポイント」を図面に書き起こし、サイを追うことになりました。さあ、サイはどこに？

ふだんは展示室で作品を見るだけのあなたも、サイが残した「お宝ポイント」を館内をくまなく探してみてください。いろいろな仕掛けがいっぱい、サイのムフフの笑みを、あなたはいつ見つけられるかな。じっと見比べたり、暗号を解読したり、目を閉じて耳を澄ましたり…お天気やその日の気分にあわせて、きっといろいろな発見があるはず。

「美術館にサイなんているわけないじゃん!」と笑っている君も、お宝ポイントを全部通過できると、サイの秘密が分かるかも？

こう書いている間にも、「Hunting Museum!」はどんどん膨らんでいます。さて、どうなることやら。あなたも、GOOD LUCK!（M.N.+S.M.(ARDA)）（企画提案：ARDA[担当：村田早苗、滝沢葉子、西村智弘、安田亜希子、加藤直子]、協力：柴山拓郎[作曲家・東京電機大学]）



300%スパニッシュ・デザイン／ファッションとスペインの文化

7月16日(土)～10月10日(月)

～会場は、まるごとスペイン文化が楽しめるしかけになっています。～

当てよう！入館者500万人達成日

《クイズにご応募ください。》

- ☆ 入館者500万人達成予想日、住所、氏名、電話番号を明記し、はがき、ファックス、電子メール(p240111@pref.saitama.lg.jp)又は館内応募箱にてご応募ください。
- ☆ 応募期限は7月24日(日)です。
- ☆ 正解者の中から抽選で3名様にモネの「積みわら」クッションキットを、応募者の中から抽選で20名様に当館企画展招待券をペアでプレゼントします。
- ☆ ご応募はお一人様1回でお願いします。
- ☆ ヒントその他詳細は館内又は当館ホームページをご覧ください。

近代美術館では、昭和57年11月3日の開館以来、平成17年5月31日までの入館者が4,938,489人を数え、入館者500万人達成まであと61,511人となりました。過去100万人ごとの節目には記念式典を行っていましたが、それだけでは達成した日しか盛り上がらないので、今回は事前のイベントとして、達成日を予想するクイズを行っています。もちろん達成時は今までどおり記念式典も行いますのでご安心(?)ください。

応募方法は4つありますが、特に館内に設置した応募箱に直接応募されることをお勧めします。その方が当たる確率が高いというわけではありませんが、皆さんにご来館いただければそれだけ500万人達成に近づくからです。また、ご応募された達成予想日にご来館されますと、予想的中のみならず、ご自身が栄えある500万人目になれるかも知れません。

それでは、皆様のご応募、ご来館をお待ちしています。(Y.Mi.)

展覧会見て歩き

「アール・デコ展」 4/16～6/26

近年、国内でこれまでアール・デコに関して開催された展覧会といえますと、「アール・デコと東洋」(2000)、「アール・デコ様式」(2003)があります。いずれも「アール・デコの館」と呼ばれている東京都庭園美術館で開催されていますが、今回の東京都美術館の展覧会は2003年からV&A美術館で企画された国際巡回展を再構築したというもので様々なジャンルを総合的に取り上げ、大規模なものでした。なかでも会場に再現された英国の「ストランド・パレス・ホテル」の玄関部分はまばゆく、時代の雰囲気を与え圧巻でした。

ところで陽 咸二(よう かんじ 1898-1935)という彫刻家に《支那人の皿回し》(1928)という作品があります。<異端の彫刻家>として、また彼も属し、彫刻と建築の融合を試みた「構造社」というグループとともに近年関心が寄せられている彫刻家です。私がこの作品を知ったのは奇しくも、20年ほど前のこの東京都美術館で開催された

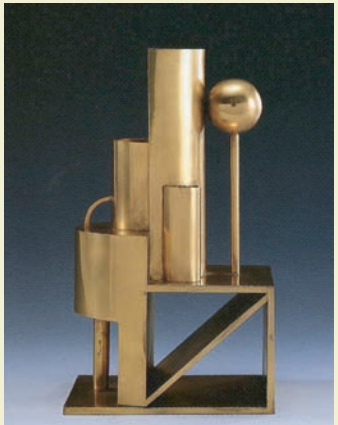


陽 咸二《支那人の皿回し》1928年

「1920年代・日本展」でした。従来の時代区分やジャンルごとの枠組みではなく、様々なジャンルを輪切りにその切り口を見せるという画期的な企画展でした。

この作品の造形の鍵をほぼ同時期に展開していた今回の「アール・デコ展」のなかに探れないかと思っていたのです。今回の展覧会には日本のコーナーに陽 咸二の作品と同質的要素の認められる工芸家の高村豊周《挿花のための構成》(1926)、内藤春治《壁面への設計》(1927)が出品されていました。工芸を主体に考えれば「彫刻は用を離れた工芸」ともいえますので、決して不思議なことではないのです。これまで近代日本の美術では絵画や工芸の部分ではアール・ヌーヴォー、アール・デコについては多く言及されていますが、彫刻界では、量塊に基礎をおく写実的な彫刻が支配して閉鎖的な体質も働いたためでしょうか、ほとんどありませんでした。直線、円、幾何学線を中心に発展したデザインである「アール・デコ」を末続堯氏(『日本のアールデコ』の著者)は、1.遊びの美学、2.アンバランスの美学、3.異種混合の美学、4.デフォルメの美学と

(次ページへつづく)



高村豊周《挿花のための構成》1926年

企画展「300%スパニッシュ・デザイン」

「ファッションとスペインの文化」(同時開催)



フリオ・ロメロ・デ・トレス

マヌエル・ベルテガス

《パストーラ・インペリオ》1922年 油彩

《カクテル・ドレス》1981年

とき・7/16(土)～10/10(月・祝) ところ・企画展示室(2階)
観覧料・一般800円(団体640円)、大高生640円(団体520円)。中学生以下と65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料です。
内容・スペインとデザインの関わりを紹介する2本の企画展を同時開催します。“300%”では、20世紀初頭から今日までのスペインの照明・椅子・ポスターの代表作各100点を一堂に会します。“ファッション”では、スペインの文化が世界のモードに与えた影響を紹介します。

《関連の催し物》

○ワークショップ〈スペインひろば〉

とき・8/13(土) 13:30～16:30
8/27(土) 13:30～16:30

ところ・講堂(2階) 費用・無料

内容・フェイスペイントやヘアアレンジを気軽に楽しみます。『アートの森』のプログラムですが、大人も子どもも自由に参加できます。

○ミュージアム・コンサート「塩谷 哲 Solo Piano Live」

とき・9/ 2(金) 18:30～19:30

ところ・エントランス・ホール(1階)

費用・無料(ただし、企画展観覧券の半券を提示してください。)
出演・塩谷 哲(しおのや さとる、ピアノ)

内容・視覚的イメージ豊かなオリジナル作品など。

定員・100席(先着順)

*当日10:00から受付(1階)で整理券を配布します。

○スライド・トーク

とき・7/23(土) 15:00～(30分程度)
8/13(土) 15:00～(30分程度)
9/10(土) 15:00～(30分程度)

ところ・講堂(2階)

費用・聴講無料

講師・担当学芸員

常設展 第2期

とき・7/27(水)～10/30(日) ところ・常設展示室(1階)ほか
観覧料・一般200円(団体120円)、大高生100円(団体60円)。中学生以下と65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料です。企画展とあわせて観覧する場合、常設展料金が半額になります。
内容・○「描かれた風景－日本と西洋の近代絵画」モネやピサロなど西洋の風景画から現代の表現まで、時代やジャンルを横断して様々な風景画を紹介します。

○「キュレーターの視点－<点>と<網>」新しい視点と展示手法で、瑛九、草間彌生、リキテンスタインらの作品に、特別出品を交え、〈点〉と〈網〉の織りなす世界へと誘います。

○「森田恒友の素描と版画」水墨画やコンテによるデッサンに重きをおいた森田恒友。彼の目指した素描の意味を探ります。

○「ミューズ・フォーラム－ARDAの宝島探偵団」ARDA（NPO芸術資源開発機構）の企画協力により、宝島に見立てた美術館の新しい楽しみ方を提案します。

《関連の催し物》

○サンデー・トーク

担当学芸員が展示作品から1点を選び、その作品について解説します。

A とき・8/14(日)15:00～

ところ・常設展示室(1階)

内容・牧野虎雄《晩き夏》1927年

担当学芸員・大越 久子

費用・常設展観覧料が必要です。

B とき・9/11(日)15:00～

ところ・常設展示室(1階)

内容・草間彌生

《A.Q.INFINITY NETS》1960年

担当学芸員・梅津 元

費用・常設展観覧料が必要です。



美術館サポーターによる 作品ガイド

とき・毎日14:00～[7月27日(水)

～8月2日(火)までを除きます。]

ところ・常設展示室(1階)

費用・常設展観覧料が必要です。

内容・美術館サポーター（ガイド・ボランティア）が、展示作品について30分程度の解説をします。あなたもアートのお話に参加して見ませんか。

事前の申し込みは不要です。

誰でも自由に参加していただけます。



森田恒友《緑野》1927年

アートの森 子どものためのプログラム

とき・毎土曜日 13:30～ ところ・講堂（2階）創作室（3階）ほか
対象・小・中学生

費用・無料【[アートの森工房]のみ参加費(500円)が必要です。】

8月	6日(土)	夏休みお楽しみプログラム「アートカードで展覧会をつくっちゃおう!」(申込不要)
	13日(土)	夏休みお楽しみプログラム「スペインひろば」(申込不要)
	20日(土)	夏休みお楽しみプログラム「アートカードで展覧会をつくっちゃおう!」(申込不要)
	27日(土)	夏休みお楽しみプログラム「スペインひろば」(申込不要)

9月	3日(土)	アートの森「子ども相談」(申込不要)
	10日(土)	アートの森工房「光の写真!影の写真!」
	17日(土)	アートの森の探検隊「建物」
	24日(土)	アートの森工房「彫刻で楽しくA`ニッ!」

アートの森 10月～11月の参加者募集のお知らせ

※9月1日(木)より10月～11月の申し込みを受け付けます。

とき・毎土曜日 13:30～ ところ・創作室（3階）ほか

対象・小・中学生

費用・無料【[アートの森工房]のみ参加費(500円)が必要です。】

申込方法・FAXまたは当館にて直接お申し込みください。内容、応募状況等、詳しくは「アートの森」のチラシまたは当館ホームページをご覧ください。

10月	1日(土)	アートの森の探検隊「イス」
	8日(土)	アートの森の探検隊「建物」
	15日(土)	アートの森の探検隊「彫刻」
	22日(土)	アートの森工房
	29日(土)	アートの森工房

11月	5日(土)	子ども美術館講座「гент美術展展」
	12日(土)	子ども美術館講座「гент美術展展」
	19日(土)	アートの森の探検隊「建物」
	26日(土)	アートの森の探検隊「ひみつ」

一般展示室(地階)

◆8/2(火)～8/7(日)

第5回エコロジー・アース・アート21（油彩、水彩、版画、彫刻、工芸、書、写真）…………… 一般展示室1～4

◆8/9(火)～8/14(日)

第10回県書芸展（書）…………… 一般展示室1～2

海墨書芸展（書）…………… 一般展示室3

西元陽司展（CG）…………… 一般展示室4

◆8/16(火)～8/21(日)

第38回埼玉平和美術展（絵画、彫刻、工芸、書、写真）…………… 一般展示室1～4

◆8/23(火)～8/28(日)

第19回墨芳展（書）…………… 一般展示室1～3

アフリカの風（写真）…………… 一般展示室4

◆8/30(火)～9/4(日)

第8回全日中展（水墨画）…………… 一般展示室1～4

◆9/6(火)～9/11(日)

第22回埼玉県写真サロン（写真）…………… 一般展示室1

第14回工芸新樹会公募展（工芸）…………… 一般展示室2

西遊会美術展（水彩、油彩）…………… 一般展示室3～4

◆9/15(木)～9/18(日)

第49回埼玉書道展（書）…………… 一般展示室1～4

◆9/21(水)～9/25(日)

第20回埼玉県版画家展（版画）…………… 一般展示室1

読売写真クラブ第13回総合展（写真）……… 一般展示室2～4

◆9/27(火)～10/2(日)

第38回埼玉三軌会展（油彩）…………… 一般展示室1

自由画壇展（油彩、水彩）…………… 一般展示室2～3

埼玉・住まいの会 '05建築展（建築図面、模型、写真）…………… 一般展示室4

(前ページよりつづく)
分析していますが、1920年代に活躍した陽 威二にはまさにこうした言葉があてはまるのです。ジャンルの縦割りで展開してきた日本の近代美術の研究は、こうした枠をとりはらって探る必要があるのです。また、1920年代以後、様々な要素が交錯し、当時の西欧の植民地主義を背景にしたアフリカ、インドシナなどのエキゾティシズムへの憧憬も具体的に検証され、日本美術も影響を与えた「アール・デコ」が国という境界を超え、日本だけでなく世界を彩っていたことをあらためて確認した展覧会でした。

ところでようやく“陽”の目（ひのめ）を見た構造社に焦点を当てた「昭和初期の彫刻家たち展」、6月から全国巡回がはじまります。強い関心をもって見守っています。(H.I.)

どきどき わくわく

夏のアートの森「お楽しみプログラム」

いよいよ子どもたちの心はずむ夏休みがやってきます。近代美術館では、夏休みだけの「お楽しみプログラム」を用意しています。さて、どんなどきどき、わくわくがあるのでしょうか。それでは、発表します。

その1「アートカードで展覧会をつくっちゃおう!」

アートカード（当館収蔵作品

の図版）を使って、自分だけの

展覧会を楽しく作ります。まず、

たくさんのカードの中から、自分

でテーマを決めて作品を選び

ます。それを展示室に見立てた

箱の中に置いて展覧会をつくっ

てみるというものです。展覧会

をつくる人の気持ちにちょっと

だけ近づけるかもしれません。

※先着20組（13:00講堂前受付）

☆講師 山内舞子（アート・エデュケーショナル・プランナー）

その2 企画展「300%スパニッシュデザイン/ファッションとスペインの文化」関連ワークショップ〈スペインひろば〉

企画展「ファッションとスペインの文化」とからめた体験コーナーです。スペインのエネルギッシュで明るい雰囲気、ボディーアートや、オリジナルデザインで楽しむというもの。フェイスペイント、ヘアアレンジ、ポイントメイクなど、自分の顔、髪、手などにちょっとした化粧や装飾ができます。アートスタッフにやってもらうもよし、自分でやるもよし、友達や親子でやるもよし。きっとおしゃれな気分になれるはず。記念になるものが持ち帰れるかも!?

☆協力 荒井優子（トップモードアーティスト学院）

その3「親子で楽しむワークショップ」

右の写真をご覧ください。大きな絵

が壁に飾ってありますが、なんと!これ

がイスになってしまうのです。この作品

を制作した西尾路子さんと一緒に、1

枚の板からパーツを組み合わせたイス

づくりに挑戦します。親子で力をあわせ

て厚い板を切ったり色をぬったり、楽し

くつくりましょう。この夏の素敵な思い

出づくりにいかがですか。

☆とき 8/7(日)、8/21(日)

☆講師 西尾路子（美術家）

☆参加費 1組(2名) 2,000円（材料費）

☆申込締切日 7月20日(水)

応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

※申し込み方法、詳しい内容は美術館HPで。

その4「夏休み子ども相談コーナー」オープン

美術館の楽しみ方がわかる夏のガイドがもれなくもらえます。また、相談員が質問にこたえてくれたり、鑑賞のヒントを紹介してくれます。夏休み中、毎日美術館でやっています。ぜひ来てくださいね。(T.A.)

ミュージアムショップからの

おすすめ商品

まるで水玉模様の水滴か、シャボン玉が浮いているような、内倉ひとみさんのアーティスト・グッズです。

大きい方は、付属の両面テープで窓ガラスに貼ると、レンズの効果でいつもの外の景色が違う世界に見えてきます。これには、「ヴィーナスの忘れ物」という名前がつけられています。美の女神が忘れていったのは、貝殻から生まれた時の海の水滴でしょうか。

小型の「ルーミラー」はマグネット付きで、部屋の景色やあなたを映し出します。こちらには「あなたが輝くために」という言葉が添えられています。(Y.Ma.)



「ヴィーナスの忘れ物」/25x23cm
3,150円(税込み)



「ルーミラー」/5.5x6cm
1,050円(税込み)

利用

案内

開館時間・10:00～17:30、金曜日は10:00～20:00（展示室への入場は閉館の30分前まで）
休館日・月曜日（ただし、7/18(月・祝)、9/19(月・祝)は開館）、7/19(火)、9/20(火)
入館料・無料 観覧料・常設展は一般200円(120円)、大高生100円(60円)。企画展は上記のとおりです。()内は20名以上の団体料金。中学生以下と65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料です。※企画展とあわせて観覧する場合、常設展料金が半額になります。

交通・ＪＲ京浜東北線北浦和駅西口より徒歩3分（北浦和公園内）

*当館には専用駐車場はありませんが、近くの市営駐車場(有料)がご利用いただけます。団体バス等は事前にご相談ください。

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1 tel：048・824・0111 fax：048・824・0119

埼玉県立近代美術館ホームページアドレス http://www.saitama-j.or.jp/~momas/